

【背景と目的】脳卒中診療は **Time is money** であり、早期発見早期治療が重要であるが、脳卒中の救急医療体制が整備され、その実像にも変容がみられる。そこで、急性期に入院となった脳卒中症例において予後と来院までの時間を後ろ向きに解析した。

【方法】平成 23 年 9 月 1 日から平成 28 年 8 月 31 日までの当院に急性期（発症時間 1 週間以内）に入院した連続 2762 例のうち病前 modified Ranking Scale(mRS)<3 であった 2106 例を対象とし、発症から来院までの時間別に、退院時 mRS<3 の割合、死亡率を調査した。【結果】脳梗塞は 1482 例、男性 63.0%、平均年齢 71.6 歳であり、平均在院日数は 28.6 日であった。時間別の予後は、発症 3 時間以内 {203 例 (13.7%)、mRS<3:81.8%、死亡率 : 6.0%}、3-4.5 時間以内 {106 例 (7.6%)、mRS<3:68.9%、死亡率 : 0.1%}、4.5-8 時間以内{128 例 (8.6%)、mRS<3:43.8%、死亡率 : 1.6%}、8-12 時間以内 {86 例 (5.8%)、mRS<3:65.1%、死亡率 : 10.5%}、12-24 時間{145 例 (9.8%)、mRS<3:71.7%、死亡率 : 1.4%}、一方、脳出血（クモ膜下出血を除く）は 458 例であり男性 63.1%、平均年齢 67.1 歳であり、平均在院日数は 56.0 日であった。発症 3 時間以内 {245 例 (53.4%)、mRS<3:31.8%、死亡率 : 8.2%}、3-4.5 時間以内 {38 例 (8.3%)、mRS<3:60.5%、死亡率 : 7.8%}、4.5-8 時間以内{36 例 (7.9%)、mRS<3:47.2%、死亡率 : 11.1%}、8-12 時間以内 {32 例 (7.0%)、mRS<3:28.1%、死亡率 : 12.5%}、12-24 時間{48 例 (10.5%)、mRS<3:39.6%、死亡率 : 0%} であった。【結論】発症早期に搬送される脳梗塞ほど予後良好であるが、脳出血は超急性期に搬送される割合が脳梗塞よりもむしろ高く、若年で予後が不良である。